

平成 27 年度第 2 回忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

開催日時 平成 27 年 8 月 20 日 (木) 14:00~16:00
開催場所 忠岡町シビックセンター本館 3 階 研修室 1・2
出席者 【委員】

大阪府立大学客員研究員 博士	井上 馨 (会長)
忠岡町自治会連合会 会長	高見 晃市
忠岡町防犯委員会 会長	花野 淳一 (副会長)
(社福) 忠岡町社会福祉協議会 会長	上ノ山幸子
忠岡町子ども・子育て会議 会長	奥田ヒサ子
忠岡町 P T A 協議会 東忠岡小 P T A 副会長	森 佳子
忠岡町国際交流オーストラリア ・ピットウォーター市派遣者 代表	白石 大樹
忠岡町商工会 会長	萬野 俊史
忠岡町小売商連合会 会長	上田 協春
忠岡町農業委員会 会長	前川幸一郎
いずみの農業協同組合 営農経済部長	信貴 正憲
忠岡漁業組合 組合長	勝元伊一郎
ベル食品工業(株) 代表取締役	植田 末廣
忠岡町労働者協議会 議長	藤田 茂
(株)りそな銀行泉大津支店 支店長	斉脇幸史朗
(欠席委員)	
忠岡町老人クラブ連合会 会長	田部 通夫
(株)テレビ岸和田 取締役技術本部長	嶋崎 宏和

【忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部委員】

和田町長 (本部長)、富本教育長 (副本部長)、原田町長公室長 (副本部長)、
柏原町長公室次長、藤田産業まちづくり部長、小林産業振興課長

【事務局】 秘書政策課 奥村課長、石栗係長

配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員名簿

【会議資料】

- ・ 資料 1 忠岡町 結婚・出産・子育て、定住・移住に関する意識調査 調査結果
- ・ 資料 2 忠岡町 事業者の意識調査 調査結果
- ・ 資料 3 忠岡町人口ビジョン (素案)
- ・ 資料 4 忠岡町子ども・子育て応援プラン 2015 (概要版)

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 町長挨拶

4. 「結婚・出産・子育て、定住・移住に関する意識調査」の調査結果について

- ・事務局：資料1の説明

5. 「事業者の意識調査」の調査結果について

- ・事務局：資料2の説明
- ・会長：ご意見、ご質問をお願いします。
- ・委員：私は、資料2に関心を持って聞きました。忠岡町は、昔は繊維のまちであったが、今は事業者の数が少ない。調査の母集団が少ない中で、実態に結びつくのか疑問なところはありますが、忠岡町に住んで、忠岡町の事業所に勤める方が少ないのは問題かと思いました。難波や本町が近く、最適な通勤圏であるとは思いますが、忠岡町の事業を守っていく意味では、忠岡町で働く人を増やす方策はないのでしょうか。
意識調査とは別に、町内に勤めている勤労者と町外に勤めている勤労者の割合、および外国人労働者の数についての資料があればありがたい。
- ・事務局：調査対象については、議論の末、雇用のことなども聞くので、ある程度の規模のところを対象としました。母数が少ないのは問題かと思っています。従業員に町外の人が多いのはわかっていましたが、思っていたよりもかなり多かったです。母数が少ないのでこれで結論付けることはできないと思っており、参考資料としたいと考えております。
町内の勤労者や外国人労働者のデータについては、国勢調査等を使って整理します。
- ・委員：雇用人数が100人以上と100人未満の会社とで異なることもあります。町外に本社があり、町内に工場がある場合などは、本社が採用して、配属する場合もあり、その辺も探らないと本当のところは出てこないのではないのでしょうか。
- ・事務局：その辺の細かい分析は今回の調査では出てきません。この資料は母数が少ないので、大まかな意向についての参考資料として使用します。
- ・会長：何度も回答の依頼を行い努力したようですが、65%の回答であったとのことでした。
- ・委員：忠岡町に住み続けるのに、子育て環境、教育環境が重要との結果になっています。子育てしやすい環境をつくるために予算を使ってほしいです。小さい子は保育所や幼稚園に行っているが、もう少し大きくなると勉強や習い事等をさせたいということになると思います。それには結構費用がかかるので行政から支援をいただくことはできないのでしょうか。
- ・事務局：この意向調査を受け、総合戦略を立案して参りたいです。予算の裏付けがないと前に進めないのが実情ではありますが、今後、前向きに検討します。
- ・委員：日本全国子どもが少なく、老人国になってしまう時代であり、結婚し子どもを産むことが重要ではないかと思っています。「子どもがいない」人が37%もいるのを何とかできないのでしょうか。この回答には子どもができない人も含んでいるとは思いますが、問16では「経済的に難しかったから」という理由が多く見られます。子どもを産んでもらうために、行政として支援して

いく考えはありませんか。

- ・事務局：支援していくためには、経済的に難しい人の総数等について、もう少し掘り下げないといけないと思います。子どもを持たずに気楽でいたいという価値観の問題もあり、判断が難しいのが実情です。先行型の事業で不妊治療への補助は拡充したところであり、今後も産みたくても産めない方への支援をします。
- ・会長：価値観の問題もありますが、何とかプラスのスパイラルに持っていきたいですね。
- ・委員：親としては、低学年の間はいいのですが、高校、大学になると大変です。小中学校だけでなく、高校や大学に進学してからも支援があると良いと思います。
- ・会長：継続して支援ということですね。
- ・委員：私は大学生ですが、同年代では、友達同士などで結婚する人も多く、早くに結婚する人たちは忠岡町の中学を出て忠岡町しか知らない場合が多いと思います。大学に通うと忠岡町以外の環境を知り、忠岡町に戻る動機が減るのでは。そのため就職や結婚を機に町外に出ていく傾向があるのだと思います。いったん忠岡町外で生活した人がどうしたら戻ってくるかを考えてほしいと思います。そういった施策は行っているのでしょうか。
- ・事務局：田舎の自治体ではUターン事業なども行っているが、本町は市街化が進んでおり、今のところは出て行った方が戻ってくるような施策は行っていない状況です。

6. 「忠岡町人口ビジョン」（素案）について

- ・事務局：資料3の説明
- ・会長：ご意見、ご質問をお願いします。
- ・委員：直接関係ないかもしれませんが、空き家が増えています。空き家数の統計はありますか。
- ・事務局：空き家調査は特段実施していません。全国的にも空き家については問題となっており、空き家対策の法令も制定されました。本町においても建設課、生活環境課、消防等が連携し、空き家対策についての体制を整えているところでもあります。空き家の実数は、把握していませんが、現場の苦情等については把握しています。空き家実態調査を実施している自治体もあり、本町においても検討していく必要があると考えています。
- ・委員：旧福祉センターの跡地利用につきまして、お聞きします。
- ・町長公室次長：それらにつきましては、早急に検討して参りたいと考えております。現在のところ構想はありません。
- ・町長公室長：素案について補足します。P.30で総人口の推計と目標値を示しています。社会増減については、均衡を保つと説明しましたが、現在は社会減の傾向にあり、何らかの施策を打って、増やしていくことで均衡を保つようにしていく必要があります。
- ・委員：先程、子育ての話がありました。子ども・子育て応援プランのパンフレットに、「病児・病後児保育事業」は「検討します」となっています。H31年度目標の事業ですが、もっと早く実現できないのでしょうか。共稼ぎの場合、子どもが熱を出しても急に休めないということを聞きます。忠岡町が先行して実施できないのでしょうか。話題性もあるので、力を入れて検討してほしいです。
忠岡町で働く人が少ないとのことですが、昔は社宅や寮もあり忠岡で働く人が多かった。行政が中心となり、商工会にも協力いただき、忠岡町の事業所に、雇用促進を働きかけてほしいと

思います。

- ・事務局：子ども・子育て応援プランは子育て支援課が3月に策定しました。「病児・病後児保育事業」については引き続き検討して参ります。雇用の部分での事業所への働きかけについても、検討して参りたいと考えております。
- ・委員：3年程前から幼稚園の預かり保育が始まり、普通は2時までですが、有料で4時まで預かってもらえるようになりました。共働きだと4時まででは短く、5時か6時まで延長できないでしょうか。
- ・教育長：就労体系の変化に保育園や学校の旧来のシステムが合わなくなっています。総合戦略の策定の中で、町として何ができるか考えて参りたいと考えております。
- ・町長公室長：先程の病児・病後児保育や雇用促進についてのご意見についても、総合戦略を策定していく中で、盛り込んでいけたらと考えております。

7. 「忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けて

- ・事務局：「忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けての説明
- ・会長：ご意見、ご質問をお願いします。
- ・委員：アンケート結果をみると、新商品の開発や新たな販路開発に支援がほしいということ、また新たな人材の確保や技術を伝えていくことが大事であると書かれています。このようなことに対して支援する事業を考えてみてはどうでしょうか。
- ・委員：雇用の問題について、事業所を引っ張って来なければ、雇用もできません。事業所を引っ張って来る施策に町長が率先して取り組んで頂きたい。それに伴い、従業員が住宅を購入して住むことも考えられます。
- ・町長：近頃、大きな会社が来たが、雇用数が少ない状況です。500人ほど増えなければならないとなりますと、500人が働ける敷地がほしい。そのために、開発を考えなければいけない。1社5人の雇用の場合100社が必要となります。金額は少ないが、誘致企業への補助にも取り組んでいます。商工会と協力した窓口が必要です。今のところは相談窓口しかなく、あまり知られていません。ご意見をお聞きし、挑戦していく姿勢を打ち出さなければいけないと思いました。小さな町域を上手に土地活用していかなければいけないのではないかと思います。しかし、近年は、雇用数が少ないのが実態です。
- ・委員：忠岡町には、3年前に「ただお課長」というマスコットキャラクターができました。他にも忠岡をもっと知ってもらえるものがつくれないでしょうか。全国的には食べ物をアレンジしているところが多く、忠岡町独自の食材を使ったPRはどうでしょうか。
- ・町長：そのようないきいきとした動きが必要だと思います。アイデアを活かしていきたいです。キャラクターについては、泉州で最初にやり、もとを取るくらい頑張ってきました。リバージュ(ケーキハウス)では「ただお課長」のショートケーキもつくってもらっています。しかし、なかなか購買力がないようにも思います。一方、商品券を売れば、他市からも買いに来られるようです。商工カーニバルにも近隣近在から来てくれますので、そういう意味では、忠岡は地域の中心になっているのではないのでしょうか。

○今後のスケジュールについて

今後、「忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を立案する上で、「結婚・出産・子育て、定住・移住に関する意識調査」の結果等を踏まえ、国が示す4つの基本目標のうち、基本目標③の（結婚・出産・子育て）に重点を置いた施策の検討を進めていくこととする。

また、本町の若手職員から幅広く斬新かつ多様な提案を募集し、総合戦略に反映できる施策の検討を行うため、「忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」の補助機関として、若手職員で構成する専門部会設置し、施策の立案の参考とする。

次回は10月27日（火）もしくは10月28日（水）の午後開催とし、「忠岡町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」について審議頂く予定。

8. 閉会

以上